
[読者から訂正のメールです] 050404MS.doc の記事に関連 **感謝**

6. 「打上げ/政策:ロシア=カザクスタンのバイコヌール打上げ基地使用の批准に関する法案がロシアの州 Duma に送られた」

の「ロシアの州 Duma」というのは、記事の他の部分にもあるように、
” the State Duma, the main chamber of the Russian parliament, ”
ロシア議会の下院である「国家会議 State Duma,

Gosudarstvennaya Duma」(議員定員 450 人)のことです。

上院は連邦会議「Federal Council, Sovet Federatsii」といって、議員定員 178 人だそうです。

4月2日 13時1分更新 時事通信

再編計画立案、来年から本格化＝シャトル退役に備え－NASA

【ワシントン1日時事】米航空宇宙局(NASA)のスペースシャトル・国際宇宙ステーション(ISS)計画担当のコステルニク副次長は1日、電話による記者会見を行い、スペースシャトル退役後の宇宙探査に

備えるため、来年からNASAの包括的な再編計画立案が本格化するとの見通しを明らかにした。

4月5日(火)9時56分更新 RBB TODAY

07年にはデジカメや iPod mini でも 20G バイト HDD の搭載が可能に。日立 GST の新技術

<http://dailynews.yahoo.co.jp/fc/computer/storage/>

日立グローバルストレージテクノロジーズ(日立 GST)は、HDD の高密度記録技術「垂直磁気記録技術」のフィールド試験を進めていると

発表した。ここでは、1平方センチメートル当たり230ギガビットの面記録密度の HDD が採用されている。

March 30, 2005 7:35 PM WIRED NEWS (2005/03/30)

初のソーラ・セイル宇宙船、打上げは5月に

<http://hotwired.goo.ne.jp/news/20050330305.html>

大きなセイル(帆)に太陽の光子を受けて自力で宇宙を航行するソーラ・セイル宇宙船。惑星協会が当初4月末に予定していた打上げは、

テスト作業遅れから数週間延期され、5月中となりそう。

March 30, 2005 7:35 PM WIRED NEWS (2005/03/30)

米国防総省、戦場向けの遠隔手術ロボット開発へ

<http://hotwired.goo.ne.jp/news/20050330302.html>

米国防総省は、戦場で使用できる手術ロボット搭載無人搬送車の開発のため、研究資金 1200 万ドルを提供する。敵の砲火の中で遠隔

操作ロボットが負傷兵に手術を施し、戦場から退避させるという。

March 30, 2005 7:35 PM WIRED NEWS (2005/03/30)

宇宙への招待(6): 日本の宇宙開発はどこへ向かう?(上)

<http://hotwired.goo.ne.jp/news/20050330306.html>

今年の日本の宇宙開発カレンダーには、2月の H-IIA 7 号機の打上げに続き、もう1つ大きなイベントが書込まれている。夏から秋にかけて、小惑星探査機『はやぶさ』が『イトカワ』に接近・着陸し、サンプルを回

収するという史上初の試みに挑戦する。特集「宇宙への招待」第6部では、日本の宇宙開発を展望する。

March 31, 2005 7:25 PM WIRED NEWS (2005/03/31)

宇宙への招待(6): 日本の宇宙開発はどこへ向かう?(下)

<http://hotwired.goo.ne.jp/news/20050331309.html>

野口聡一飛行士の乗組む5月のスペースシャトル飛行再開は、国際

宇宙ステーション(ISS)組立て再開でもある。日本の実験モジュール

『きぼう』はすでに完成し上げを待っている状態だが、米を中心とする ISS への参加だけでなく、日本独自の有人飛行計画も浮上して

きた。はたして日本の宇宙開発はどこへ向かうのか。特集「宇宙への招待」最終回

March 31, 2005

日刊航空通信CLIP

04年収益好調受け着陸料引下げ内容・時期を検討

NAA、収益1630億円見込む05年度経営計画策定

成田国際空港(株)(NAA)の上子道雄常務は29日会見し、収益1,360億円・経常利益280億円を見込む2005年度経営計画を発表した。それによると、同社は好調に推移している04年度決算見込みを受けて着陸料引下げの具体的な検討に入っており、内容を固め次第IATAに提出して交渉に入り、合意できれば即、05年度内にも実施したいとしている。

◇2005年度経営計画:03年の低迷を脱し、発着回数、旅客数、貨物量、給油量など各要素が過去最高見込みとなる04年度以降も需要は増加すると見込み、NAAとしては05年度を「成長のための基軸と民間企業としての形を固める」年と位置づける。需要見込みは▽旅客数=04年度見込対比1.5%増(国際線同1.4%増、国内線同4.1%増)、▽発着回数=同0.5%増(国際旅客同0.2%増、国際貨物同0.2%増、国内線同4.0%増)とする。

(1)最重点施策(A)着陸料引下げ=民営化の成果として利用者負担軽減を図るとともに中長期的な競争力を強化するため、受益と負担の間の透明性・合理性向上や財務基盤の強化を考慮したうえで実施する。04年度決算見込みが好調であることを受け、内容の具体的検討に着手している。内容を固め次第IATAに提出し、合意できれば05年度内にも実施したい。(B)平行滑走路2,500m化、第1PTB南棟改修・航空会社再配置。(C)成田新高速鉄道整備の推進=2010年度開業に向けて環境アセスメント、都市計画決定、工事施工認可などの手続きを終え、年度内に着工する。

(2)重点施策(A)空港の安全性向上=▽A滑走路16Rの運用をカテゴリ3b化する(05,06年度の2ヵ年かけて実施。霧などによるダイバードを減少させる)。▽EDS(爆発物検知装置)により受託手荷物の100%を自動検査するインラインスクリーニング方式を導入(第1PTB南ウイングに06年度中に11基、同北ウイング9基と第2PTB20基を07年度に導入)。

警備・消防業務を分社・一元化する(4月設立、7月業務開始予定)。▽諸施設の耐震性を向上する

(B)サービスレベル向上=▽A380 アッパーデッキ対応搭乗橋を整備する(第1PTBを中心に2スポット分整備し、2010年度には1日8便が利用できるようにする。整備位置は検討中)。▽CS推進充実のため、新たな行動目標を策定して取組みを深化する。▽e-エアポートプロジェクトを推進する。(C)環境対策・地域共生策の確実・適切な実施。(D)組織体制強化=新人事評価制度を本格運用する。(E)コスト削減=中期経営計画(04~06年度)の3ヵ年度で管理可能経費10%削減

の目標を初年度で達成しているが、さらに深掘りする。(F)収益事業展開=▽第1PTB南棟の06年夏共用に向け、直営店舗運営リテール会社2社を設立し、営業開始の諸準備を進める。▽騒音用地などの遊休地を有効活用する。(G)上場準備=平行滑走路2,500m化の状況を見極めつつ、社内管理の整備や会計制度づくりを進め、上場準備組織を設置して進める。

(3)損益計画(NAA単体)=営業収益1,630億円(04年度見込み対比10億円増)/営業費用1,250億円(同30億円増、うち営業原価・販管費810億円・同30億円増、減価償却費440億円・同増減なし)/営業利益380億円(同20億円減)/営業外収益0(同10億円減)/営業外費用100億円(同30億円減)/経常利益280億円(同増減なし)。これらの数値には着陸料引下げを算入していない。着陸料引下げ内容を決定次第修正する。なお、営業収益に占める着陸料・停留料のシェアは2004年度見込で約38%となっており、05年計画も同程度を見込む。

(4)設備投資計画=設備投資額約795億円。主な内容は▽平行滑走路2,500m化(45億円)、▽第1PTB増改築工事(継続事業。344億円)、▽成田新高速鉄道空港内施設整備(26億円)、▽A滑走路16Rカテゴリ3b化(1億円)、▽EDS100%によるインラインスクリーニング化工事(設計のみ)、▽空港諸施設耐震性向上(3億円)、▽A380アッパーデッキ対応搭乗橋整備(設計のみ)、▽第2PTB増築工事(62億円)、▽A滑走路、誘導路舗装改修工事(18億円)、▽一期地区誘導路改良(17億円)、▽一期地区エプロン改修(45億円)。

◇平行滑走路2,500m化に関する進捗状況:北側国交相より指示されている3月末の期限が迫っているが、31日ギリギリまで用地交渉努力を続ける。その状況を4月早々に大臣に報告することになっており、交渉に明らかな前進が確実にあった場合にさらに猶予を求める可能性があるが、現状では具体的な状況を公表できる段階ではない。大臣は「3月末で区切ったということは軽い意味で区切ったわけではない。それを延ばすには、それだけの理由がなければならない」と述べており、NAAとしては期限まで全力を尽くし、状況を見極めたうえで大臣に報告したい。

この他、NAAがA滑走路と並行した4,000m級滑走路の建設について検討を始めたとの一部情報について上子常務は「本来計画による2,500m化に全力で取り組んでいるNAAにはそのような計画はまったくない。社内で構想されたことすらない」と明確に否定した。

April 01, 2005 4:24 AM Space Systems FC

国際宇宙ステーション第10回遠征クルーは第二回の船外活動を実施

SECOND EGRESS PERFORMED BY EXPEDITION 10 CREW ON INTERNATIONAL SPACE STATION

MOSCOW - The Expedition Crew 10 (ISS-10) of the International Space Station (ISS) performed the second egress into space out of the

<http://emarketalerts.forecast1.com/mic/eabstract.cfm?recno=114114>

ロシアのプロトンには多忙な年に

BUSY YEAR SHAPING UP FOR RUSSIAN PROTON

NEWTOWN, Conn. - A Proton launch vehicle successfully deployed the Express AM-2 communications satellite March 29. This was the

<http://emarketalerts.forecast1.com/mic/eabstract.cfm?recno=114105>

DRS社はWISE (Wide-field Infrared Survey Experiment)衛星の赤外線センサとエレクトロニクスを設計・製造することに

DRS TO DESIGN AND PRODUCE INFRARED SENSORS AND ELECTRONICS FOR WISE SATELLITE

PARSIPPANY, N.J. - DRS Technologies has received a new contract to develop and deliver advanced infrared sensor modules supporting

<http://emarketalerts.forecast1.com/mic/eabstract.cfm?recno=114094>

two EVAs scheduled in the flight program. The extravehicular activities were preceded by the...

second Proton launch of 2005. A Proton Breeze M successfully lifted the AMC-12 satellite into orbit...

the Wide-field Infrared Survey Experiment (WISE) mission of the NASA Medium Explorer program. The ...

3月29日 17時41分更新 時事通信社

国際宇宙ステーションに最先端音声認識システム＝米ニュアンス

【Business Wire】音声認識技術・ソフト大手の米ニュアンス(NASDAQ: NUAN)は、同社最新の音声認識技術を搭載したバーチャル・アシスタント「クラリッサ」(Clarissa)が、近い将来、国際宇宙ステーション(ISS)で実用化されると発表。

クラリッサは、NASA エームズ研究センタ技術陣とニュアンスが共同開発した。人との音声による会話が可能な最先端技術システムと、ニュアンスの最新音声認識ソフトがエンジン部に搭載されている。

同システムは、今年1月13日に ISS に搭載され、約半年にわたって地上試験が行われる予定。これまで宇宙船乗組員は、宇宙服の状態・飲み水の品質などの生命維持システム、健康診断や機器類な

どのチェックに、ノートPC端末を使用していたが、無重力に近い状況下での操作は困難で、作業効率が低かった。今後は新システムにより、クラリッサを音声で操作することで素早い作業が可能となる。同システムの詳細・マルチメディア情報はサイト、

www.nasa.gov/centers/ames/multimedia/images/2005/Clarissa.html

【時事編注】この記事はビジネスワイヤ提供。英語原文は

www.businesswire.com

3月30日 10時38分更新 読売新聞

津波・火山など監視衛星、2012年度に打上げ構想

文部科学省は29日、アジア・太平洋地域の地震や津波、火山活動などの監視衛星群を2012年度に打上げる構想を明らかにした。

高度600～1000キロを周回するレーダ衛星4基と、高度36,000キロの光学静止衛星1基を組み合わせ、3時間以内に目標地点の観測が行える体制を整える。スマトラ島沖地震など頻発する自然災害防止への貢献策として、今年10月に北九州市で開かれるアジア太平

洋地域宇宙機関会議で提案する。

レーダ衛星は、発射した電波の反射をとらえて地表の画像を作成するもので、夜間や雨天でも威力を発揮する。地震発生前後の画像を比べれば、断層の形状や地滑り量などの地殻変動がわかる。また火山の隆起や地震の前兆となる地殻変動の検出も期待される。

2005年3月30日 4:50 Space Systems FC

NASA 自律ランデブー技術実証 DART の新しい打上げ日程

NEW LAUNCH DATE FOR DART

HUNTSVILLE, Ala. - NASA's Demonstration of Autonomous Rendezvous Technology (DART) spacecraft is scheduled to launch at

1:21 p.m. EDT, April 15 from Vandenberg Air Force Base, California, on an Orbital Sciences Pegasus rocket. ...

<http://emarketaalerts.forecast1.com/mic/eabstract.cfm?recno=114028>

スペースシャトル ディスカバリーは VAB(ビークル・アセンブリ・ビルディング)へ

SPACE SHUTTLE DISCOVERY ROLLS TO VEHICLE ASSEMBLY BUILDING

KENNEDY SPACE CENTER, Fla. - The Space Shuttle Discovery, the vehicle that will launch to the International Space Station on the

Return to Flight mission this summer, rolled out of Orbital Processing Facility 3 - its home for the ...

<http://emarketaalerts.forecast1.com/mic/eabstract.cfm?recno=114019>

宇宙配備ミサイル警戒赤外線センサシステム SBIRS HIGH インクリメント 1 にさらに資金が注入された

MORE MONEY PUMPED INTO SBIRS HIGH INCREMENT 1

NEWTOWN, Conn. - The Space-Based Infrared System (SBIRS) High is a satellite system being developed to replace the satellites of

the Defense Support Program (DSP). The primary purpose of SBIRS is to provide initial warning of a ...

<http://emarketaalerts.forecast1.com/mic/eabstract.cfm?recno=113943>

インマルサット4衛星のアストロメッシュ・リフレクタ・システムは展開に成功

ASTROMESH REFLECTOR SYSTEM SUCCESSFULLY DEPLOYED ON INMARSAT 4 SATELLITE

CARPINTERIA, Calif. - Northrop Grumman Corporation's AstroMesh deployable reflector system successfully deployed aboard

the Inmarsat Limited I-4 satellite launched March 11 from Cape Canaveral, Fla. On March 25, following a ...

<http://emarketaalerts.forecast1.com/mic/eabstract.cfm?recno=114025>

FAA と米空軍は次期商業宇宙打上げパートナーシップを発表

FAA AND USAF ANNOUNCE NEXT STEP IN COMMERCIAL SPACE LAUNCH PARTNERSHIP

WASHINGTON - The U.S. Federal Aviation Administration and the U.S. Air Force are moving in concert to propose common federal

standards that will make expendable commercial rocket launches safer, more efficient, and less costly. ...

<http://emarketaalerts.forecast1.com/mic/eabstract.cfm?recno=113955>

[国際関係・一般]

早わかりQ&A=ミサイル攻撃を受けたらどう防衛するの

海と陸で2段階迎撃 文民統制形がい化も

東京新聞 05年04月04日 朝刊 10面 6段 図 1982

警視庁窃盗容疑 防衛庁元技官を聴取

潜水艦技術資料持出す 中国側へ漏えいか

東京新聞 05年04月03日 朝刊 27面 5段 1945

日本学術会議が目標提示 科学技術

今後15年「アジアで信頼構築を」

毎日新聞 05年04月03日 朝刊 2面 3段 1409

[宇宙・航空・科学]

NASA再編計画案 来年から本格化

フジサンケイビジネスアイ 05年04月04日 朝刊 9面 4段 2102

熱気球＝自分で操縦できるジャンボ旅客機の大型模型 航空科学博物館で公開

東京新聞 05年04月04日 朝刊 25面 1段 写 2004

[宇宙利用・宇宙からの観測・宇宙環境利用・宇宙実験]

これは使える！？ ジェイ・エス・ビー

不動産物件紹介システム開発 部屋探しも衛星画像で

産経新聞 05年04月04日 朝刊 8面 2段 写 1835

世界初、ドイツのチーム 太陽系外の惑星を望遠カメラで撮影

毎日新聞 05年04月04日 朝刊 6面 1段 1477

独チーム 太陽系外の惑星初めて撮った 地球から460光年

東京新聞 05年04月03日 朝刊 26面 4段 写 1937

宇宙航空研究開発機構 天文衛星 来年1-2月打上げ 100万個以上の天体観測へ

日経産業新聞(日経テレコン21) 05年04月01日 朝刊 8面 2段 写 2431

宇宙航空研究開発機構 宇宙科学講演と映画の会開催

日刊工業新聞 05年04月01日 朝刊 33面 1段 0216

[防災・環境・資源・エネルギー]

電中研がシミュレーション 3月のスマトラ沖地震 津波の広がりを再現

日経産業新聞(日経テレコン21) 05年04月04日 朝刊 8面 2段 写 2342

人形とパソコン・シミュレーションで救命救急現場を再現 学生主催の講習会も

毎日新聞 05年04月04日 朝刊 11面 7段 写 1506

ビル空調評価プログラム FACESが優良評定 利用者100社目指す

電気新聞 05年04月04日 朝刊 3面 3段 0319

[技術・産業]

住友チタニウム 東邦チタニウム 舞い躍る 航空機需要旺盛

株式新聞 05年04月04日 朝刊 2面 5段 写 0842

東芝、ソニーと共同開発 次世代MPUの機器組み込みへ

カスタム設計サービス 米IBMが開始

電波新聞 05年04月04日 朝刊 2面 4段 写 0170

エレクトロンとNHVコーポレーション SiC使った

ショットキーバリアダイオード開発に成功

電波新聞 05年04月04日 朝刊 7面 2段 写 0193

原田工業 カuttingアンテナ発売

フジサンケイビジネスアイ 05年04月04日 朝刊 17面 1段 写 2136

ネットワーク=IBMが「セル」プロセッサ採用促進へプログラム

フジサンケイビジネスアイ 05年04月01日 朝刊 13面 2段 2099

アドバンテスト 電子ビーム露光装置

次々世代40ナノ対応機 08年へ投入

日経産業新聞(日経テレコン21) 05年04月01日 朝刊 7面 4段 写 2415

十六銀 医業立地分析サービス 半月で申込み10件強

「GIS」活用は全国初

ニッセン 05年04月01日 朝刊 6面 2段 1058

[通信・放送・IT]

日立製作所 システム発売 「e-文書法」準拠で電子化

日経流通新聞MJ(日経テレコン21) 05年04月04日 朝刊 10面 1段 2523

マイクロソフト IT人材育成試験導入

毎日新聞 05年04月04日 朝刊 8面 1段 1497

ソフトバンク 北大と 2ギガヘルツ携帯実証実験 遠隔操作など検証

日経産業新聞(日経テレコン21) 05年04月04日 朝刊 1面 4段 2284

京セラ アイバースト向け 基地局と端末 南アフリカで供給開始

日経産業新聞(日経テレコン21) 05年04月04日 朝刊 4面 3段 2301

京セラ 次世代無線通信 南アフリカで提供開始

電気新聞 05年04月04日 朝刊 4面 1段 0333

京セラ 次世代無線アクセス技術 南アフリカ・WBSが採用

日刊工業新聞 05年04月01日 朝刊 11面 3段 0083

京セラ 南アフリカの通信事業者にアイバーストシステム納入

基地局50台、端末2万台

電波新聞 05年04月01日 朝刊 2面 2段 0271

タウルス 情報漏えい防ぐ無線LANシステム発売

日経産業新聞(日経テレコン21) 05年04月01日 朝刊 5面 1段 2412

個人情報保護法が施行 有料放送事業各社

体制強化し積極取組み 独自ガイドライン作成など

電波新聞 05年04月01日 朝刊 12面 4段 写 0318

[経営・人]

知的財産サロン＝税理士の仕事 タックスプランニングも必要に

フジサンケイビジネスアイ 05年04月04日 朝刊 18面 5段 図 2139

企業の針路＝NEC液晶テクノロジー 黒字転換で積極投資

日経産業新聞(日経テレコン21) 05年04月04日 朝刊 5面 5段写図 2315

日産自動車 スターフライヤー開業支援 1億5000万円出資

西日本新聞 05年04月02日 朝刊 3面 4段 1098

四季＝アライアンス・ワンワールド運営会社代表の

ジョン・マッカラックさん JALを大歓迎

日刊工業新聞 05年04月01日 朝刊 21面 1段 写 0137

SPring-8の挑戦2(24)＝高輝度光科学研究センター加速器部門

主幹研究員 鈴木伸介

日刊工業新聞 05年04月01日 朝刊 33面 3段 写図 0212

エア・ドゥ再建1年前倒し終了 債務支払い

産経新聞 05年04月01日 朝刊 8面 2段 1830

北海道国際航空 再生手続きを完了 債務完済、計画1年前倒し

日経産業新聞(日経テレコン21) 05年04月01日 朝刊 19面 2段 2534

無理難題かわす術 取引先の「納期早めよ」「値引きせよ」・・・「何をいつまで」対応法明確に

日経産業新聞(日経テレコン21) 05年04月01日 朝刊 22面 5段 2553

日本郵政公社 共用カード3種類追加 56社と提携、790万枚発行

ニッキン 05年04月01日 朝刊 12面 2段 表 1094

[航空輸送・エアライン]

IATAレポート 機体損壊率、史上最低 空の旅ますます安全に

日本海事新聞 05年04月04日 朝刊 4面 2段 0782

核心＝羽田再拡張後の増便 国内線か国際線か

東京新聞 05年04月03日 朝刊 3面 5段 写 1901

社説＝エア・ドゥ 高く飛べ「北海道の翼」

北海道新聞 05年04月02日 朝刊 2面 3段 0916

中部国際空港 事業計画 77億円かけ施設を増強

欧州エアバス「A320」100機受注

日刊工業新聞 05年04月01日 朝刊 7面 1段 写 0050

三菱重工業「B787」向け主翼補強部材製造

日刊工業新聞 05年04月01日 朝刊 7面 1段 0048

カタール航空 日本直行便を就航 ドーハー関空間、週4往復

日経産業新聞(日経テレコン21) 05年04月01日 朝刊 2面 2段 2393

三菱重工業 ボーイング次世代機「787」部品 下関で生産 投資40億円

日経産業新聞(日経テレコン21) 05年04月01日 朝刊 11面 3段 2462

三菱重工 下関に複合材新鋭設備 ボーイング向け主翼生産

化学工業日報 05年04月01日 朝刊 10面 2段 0413

三菱重工業 下関造船所で複合材主翼生産

電気新聞 05年04月01日 朝刊 4面 1段 0468

三菱重工下関造船所大和町工場 一部を次世代機部材専用に 投資額は40億円

フジサンケイビジネスアイ 05年04月01日 朝刊 9面 3段 2057

フェデラル・エクスプレス 業界初の中国ー欧州西回り直行便開始

日本海事新聞 05年04月01日 朝刊 4面 2段 0995

エア・ドゥ再生 翼の行方(下)＝真の自立 北海道内経済界の支援カギ

北海道新聞 05年03月31日 朝刊 13面 5段 写 2152

ドクターヘリ始動 あすから道央52市町村で運航

北海道新聞 05年03月31日 朝刊 38面 4段 写 2182

April 1, 2005 CDI, Center for Defense Information

<http://www.cdi.org/program/index.cfm?programid=68>

気の進まぬスーパーパワー米国と渉りあう:宇宙の安全保障を確保する実用的な尺度

Engaging the Reluctant Superpower: Practical Measures for Ensuring Space Security

Address in Geneva by Theresa Hitchens, CDI Vice President and Director, CDI Space Security Project, before a UN Institute for Disarmament Research conference on "Safeguarding Space Security: Prevention of an Arms Race in Outer Space." Hitchens argues that now is the time for launching concerted and constructive dialogue

Author(s): Theresa Hitchens

among the space-faring powers to undertake initiatives that promote cooperation in areas where they have mutual interests – as well as constructive criticism of emergent activities that could threaten the security of global space assets.